

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育てる ○やさしく ○かしく ○たくましく	○自己肯定感と人権尊重の精神の育成 ○基本的生活習慣の定着と健康教育の推進 ○基礎基本の充実と問題解決能力の育成 ○創造的建設的な自治活動能力の育成

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国学力状況調査 ○国語A、国語B、算数Aについては、県平均と比べると正答率が高い。算数Bについては、県平均と比べると正答率が低い。 ○国語A・B、算数A・Bともに、無解答率が県平均と比べて低い。 ○算数Aでは、全ての領域において県平均を上回っている。 ○国語の領域では、Aでは書くこと、Bでは読むことで県平均と比べて正答率が低い。 ○算数の領域では、A・Bともに量と測定で定着が見られ、Bでは図形で課題が見られる。 二つの数量の関係を理解：本校100% (県97%)、商を分数で表す：本校91.7% (県77%)、必要な情報の読み取り：本校88.9% (県74%) 県学力状況調査 ○国語は、4・5年で全国平均を上回っている。ただし、活用については下回っている学年がある。 ○作文や説明などの内容で課題が見られるが、漢字や言葉など基礎的な内容で大きく全国平均を上回っている。領域では、話すこと、聞くことで課題が見られるが、伝統的事項で定着が見られる。 ○算数は、全ての学年でわずかに全国平均を下回っている。基礎的な問題よりも活用の方が全国平均との差は小さい。 ○領域別では、4年では数量関係、5年では数と計算の領域で、課題が見られる。 ○4年、5年ともに、割り算、分数など計算の内容と、円と球、角の大きさなど図形の内容で全国平均を上回っている。	【学習状況調査の結果】 ○家庭での学習時間が1時間以上の児童の割合が、県平均に比べてかなり高い。 ○平日にゲームを1時間以上する児童の割合が、県平均に比べてかなり高い。 ○平日に携帯電話やスマートフォンを1時間以上利用する児童の割合が、県平均に比べてかなり高い。また、家庭でルールを決めているという割合がかなり低い。 ○「読書は好きだ」という項目に肯定的な児童の割合が、県平均をやや上回る。 ○「話し合いのとき自分の考えを持つ」と回答した児童の割合が、県平均に比べて高い。 ○「家で予習・復習をしている」と回答した児童の割合が、県平均に比べて低い。また、「返された答案の見直しをしている」という児童の割合も県平均に比べて低い。 ○「朝食を毎日食べている」という項目に否定的な回答をした児童の割合が、県平均に比べてかなり高い。 地域の行事に参加：本校95% (県65%) 土曜日の午前中に勉強する：本校35% (県64%) テレビ・ゲーム等のルールを家で決める：本校49% (県61%) ○「あいさつ」については、「先生に」「家の人に」「近所の人に」それぞれ県平均と同等であった。(各90%) 其中、「家の人に」に対してだけは県平均を下回っている。

成果	課題
○放課後補充学習を、週に1回高学年の全児童対象に行った。教材は問題データベースを活用し、前学年の算数の内容の定着を図った。 ○ウィークポイントを中心としたドリル学習に取り組み、基礎的事項の定着を図った。 ○全教職員で調査問題を解いたり調査結果を分析したりして、各学年で定着させておく内容やつけておきたい力を共通理解した。 ○全学年共通の読解教材を用いて、継続的に読み取りの指導を行った。 ○主体的、対話的な学びの力を育てるための授業づくりを研究の柱として、子どもたちが自分の考えを表現する場を積極的に設けるような授業改善を行った。	○記述問題で条件不足で不完全な解答が多い事から、解答の仕方や押さえるべきポイント(条件)がわかっていない傾向があるため、丁寧な指導が必要である。 ○算数では、位がそろっていない数同士の加減、かけ算の筆算でどの学年でも同様の間違いが見られたことから全体的な課題として系統的に指導を行う必要がある。 ○前学年の3学期や2学期に学習したことは正答率が高いが、少し前の学習内容になると正答率が下がる傾向が見られる。 ○メディアのつきあい方や朝食等、家庭での生活習慣に差が見られる。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月未現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
記述式問題での解答の仕方(不完全な解答・条件不足)	3学期中(2月下旬)	対象：4・5・6年生 達成目標：重点課題の類似問題で正答率90%以上	週末課題で過去の日問題などから類似した課題を出す。専科回で評価・分析し、指導のポイントを担任や児童に伝える。	毎週末に、課題を自作して実施している。解答を分析し、全体の傾向や個別の課題を把握して、事後の指導までを徹底している。児童の解答の好事例を掲示して意識を高めている。	A	週末課題に合計16週間継続して取り組んだ。過去の日問題から出題した調査課題では、無回答率は0%で、正答率も全国平均を倍近く上回った。	A	週末課題の成果が出ている。今年度の取組で得られたデータ(林田小の児童の強み・弱み)をもとにして、課題点に直接アプローチするような指導を行う。
前学年までの学習内容の定着と「位がそろっていないときの加減」「かけ算の筆算」等の重点課題の系統的な指導	3学期中(2月下旬)	対象：4・5・6年生 達成目標：重点課題の類似問題で正答率90%以上	放課後補充学習や家庭学習でポイントを絞った系統的な課題(補充プリント)に取り組む。	放課後補充学習では、重点課題の類似問題に取り組んだ。課題が顕著な内容については、反復して同じ問題に取り組む。定着を図った。秋チェックでは類似問題の正答率の平均が80%を超えた。	B	過去の問題から出題した課題の正答率で、「かけ算の筆算」についてはほぼ100%だったが、「位がそろっていないときの加減」については、まだ課題が残っている。	A	放課後補充学習と重書webの活用で、基礎的な計算力は高まっている。現在の取組を継続しながら、今後は「位がそろっていないときの加減」を重点的に、4年生から継続して指導する。
家庭での生活習慣(TV・ゲームの時間、あいさつ)	3学期中(2月下旬)	対象：3・4・5・6年 達成目標：親子でチャレンジ3学期分で、テレビ・ゲーム等の時間が短縮した児童の割合70%以上	親子でチャレンジや学級懇談、学校だより等で、テレビ・ゲームの時間の短縮について家庭へ呼びかける。	毎回の親子チャレンジの報告等で家庭への意識づけを図った。2学期の調査で、1学期と比較してテレビ・ゲームの時間が短縮した児童の割合は38%程度であった。さらに取組が必要である。	C	3学期の親子チャレンジで、各学年「視聴時間-10分！」を目標に取り組んだところ、全体の半数以上の家庭で短縮できた。	B	「親子でチャレンジ」の取組でPTAと連携していくことで、家庭や地域に働きかけることができる。有効に活用する必要がある。取り組んでいる家庭とそうでない家庭との差を埋めるアプローチが必要である。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○チャイム始業や無言移動など、規律ある授業づくり・環境づくりをめざす。 ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。	○OPTAと連携して取り組んでいる「親子でチャレンジ」を継続して行い、生活習慣を見直す機会を設ける。 ○人権参観日などで、親子で望ましいメディアとのつきあい方について学習する機会を設ける。 ○学級懇談等で、家庭学習やスマホ・携帯の家庭でのルールについて話題にする。